

## 生物多様性に配慮した取り組み

当社グループの活動は、多くの生態系が共存するあらゆる場所や環境において、自然環境に影響を与える可能性があります。このような状況のなかで、当社は生物多様性への影響を最小化するように努めています。

当社グループが携わる工事では、施工条件として生物多様性に影響を与えない工法が求められることがあり、これを履行できない場合は契約違反となる恐れがあります。

このようなリスクへの対応策として、当社グループでは生物多様性方針のもと、事業に関係する地域の希少な野生動植物に関する情報を収集して必要な対策を立案し、生物多様性の保護や回復のためにできることを実践しています。

参照 生物多様性方針

→ <https://www.ybhd.co.jp/sustainability/policy.html>

### 田並川橋の架設工事における猛禽類の生息環境保全に配慮した取り組み

横河ブリッジ 大阪工事本部大阪工事第一部 甲斐 博信



田並川橋は、本州最南端の和歌山県東牟婁郡串本町に位置し、自然豊かな環境を反映して多種多様な動植物が息づく地域に架かる道路橋です。なかでも食物連鎖の頂点に位置する猛禽類は生物多様性を象徴する存在であり、ハチクマやサシバは和歌山県のレッドデータブックでは「準絶滅危惧種」に指定され、環境の変化に弱い種であるとされています。しかしながら、本工事は南海トラフ地震を想定した緊急輸送道路として整備が急がれることから、当社は施工にあたり次の取り組みを実施しています。①巣営活動を妨げる作業音の発生を抑制する対策として、低騒音・低振動型の建設機械や鋼桁の添接作業に油圧工具（エスパーレンチ）を使用し、騒音・振動計で作業音の抑制効果を見える化します。②現場で発生した生ごみは屋内で保管し、カラス等の増加を防止することで、猛禽類の卵やヒナを保護します。③猛禽類は人の視線を気にする習性があるため、工事関係者に対して野鳥を注視する行動は控えるように周知徹底しています。こうした活動を通じて、猛禽類の生息環境保全に努め、繁殖活動への影響を最小限に留めて工事を行います。



田並川橋（現場）

### 太陽光発電を用いた桁内換気システムを設置した耐候性橋梁の21年目の追跡調査

横河ブリッジホールディングス 総合技術研究所研究課 神野 巧矢



当社グループは従来より太陽光発電を用いた環境負荷低減技術の開発に取り組んできました。その取り組みの1つとして、2002年に竣工した岐阜県高山市の岩波橋に導入した「太陽光発電を用いた桁内換気システム」があります。本システムは太陽光発電により得られた電力で換気扇が稼働し、箱桁内の換気を行うものです。晴天時には必要電力に達した換気扇が稼働して外の乾燥した空気が箱桁内に送り込まれる一方で、雨の日は換気扇が稼働しないため外の湿った空気を箱桁内に入れないというシンプルかつ合理的なシステムです。これにより、耐候性鋼材を用いた箱桁内の塗装を省略し、更に再生可能エネルギーを用いることで建設・維持管理コストおよび環境負荷の低減に寄与しています。

私の所属する総合技術研究所では、本システム導入後、先輩から後輩へと技術を継承しながら定期的に本橋の追跡調査を行っています。2023年度に実施した供用開始後21年目の調査においても、本システムおよび箱桁内の状況は良好であることを確認しました。調査の際には、箱桁内外の清掃や箱桁内にできたスズメバチの巣の撤去および虫の侵入防止対策も行いました。

約20年前に考えられた本システムは現在においても合理的と言え、諸先輩方の技術だけでなく考え方においても学ぶことは多いです。温故知新を胸に、より環境にやさしい構造物を開発できるよう業務に取り組みたいです。



岩波橋



桁内換気システム



箱桁内の計測状況



箱桁内の清掃